

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500316
法人名	静光園第二病院
事業所名	高齢者グループホームやまぼうし
所在地	福岡県 大牟田市 櫛野3260-102
自己評価作成日	令和2年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が地域の一員として過ごすことが出来るように、地域の方が利用できる事業所、地域に開放し地域の方が集まれるような事業所を目指している。併設の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に地域活動に取り組み、地域の活動拠点になれるように取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設される小規模多機能型事業所「たけとんぼ」まで長く続くウッドデッキ(ベランダ)の開放感が印象的であり、和を基調とした豊かな生活空間を有している。また、職員の対応や清潔感、居室づくり、入居者の方々の表情等から、本人本位に基づく、心地よい雰囲気が伝わってくる。毎年、職員意見を集約した理念の見直しと評価に取り組み、現状に即した事業所としての方向性を明確にしている。また、コロナ禍以前には、個別の目的に応じた積極的な外出支援にも取り組んでおり、これまでの個別の暮らしの継続への意識の高さがうかがえる。認知症SOSネットワークでの活動や災害時の連携について模索する等、地域拠点としての活動展開に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和2年3月30日	評価結果確定日	令和2年7月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一度は、事業所の理念の見直しや振り返りを行っている。ケアの方向性を見失わないようにするための目標にしている	事業所独自の理念は、毎年1月に全職員で振り返りを行い、次年度の理念について見直しを行っている。事業所入口に大きく掲示され、職員や来訪者、関係者の共有を図っている。理念に関する研修も実施されている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所も地域のリサイクル当番を担うことや、月に一度、地域の清掃活動をスタッフと一緒に利用者も参加して行っている。	地域の自治会に加入し、毎月、法人福祉部の施設長が代表で参加している。認知症SOSネットワーク模擬訓練では、地域拠点としての役割を担い、子供会や消防団とも連携を深め、アイデアを出しながら内容を検討している
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催、また認知症SOSネットワーク模擬訓練などを通して認知症支援について啓発している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動や行事報告などを、管理者やケアマネではなく介護スタッフも参加して、活動や行事の報告をして、事業所の取り組みを知ってもらっている。	運営推進会議には、地域の複数の役員の方々や民生委員、公民館、地域包括支援センター、行政担当者等の出席を得ている。災害対策や福祉避難所としての活用、近隣の関連事業所との合同開催の機会も設けられている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所内にある介護サービス事業所協議会と研究会などでも定期的に顔を合わせることで、制度上の相談など気軽に出来るような協力関係が出来ている。	運営推進会議には、行政担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、介護サービス事業所協議会やライフサポート研究会等の活動を通じて、顔の見える関係づくりが行われている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を部門内で開催して身体拘束について考える機会を設けている。	身体拘束0を事業所の方針として掲げ、年に複数回の研修実施やミーティングの中でより良い関わりのあり方について検討し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会を年に一度は開催してスタッフに対しての啓発、また、虐待と思われる前にスタッフで意見を出し合い支援方法を工夫するなど予防している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての研修の機会を設けている。それに合わせて日常生活自立支援事業の内容も盛り込んでいる。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、複数回の研修機会を設け、職員の理解を深めている。また、資料を準備し、必要時には活用に向けた情報提供が行えるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約前には、本人・家族に施設見学や希望があれば体験利用なども行って不安の軽減を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームで行われる行事に家族も案内することで、家族会を開催し意見や要望を尋ねることで運営に反映している。	毎年、敬老会行事にあわせて家族会を開催し、参加率も高い。また、毎月事業所通信を発行しており、日常の様子を家族と共有している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフにも自分たちの事業所という意識を高めるために、業務の内容や運営などの意見を聞いている。会議などで意見を言えないスタッフに対しては面談などで個別に聞いている	会議の前には事前に職員への聴き取りを行い、意見が出やすいよう配慮するとともに、参加できない職員の意見の反映にも努めている。休憩時間の確保等、実際に職員意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の事情もスタッフそれぞれにある。勤務に関しては皆がお互い様という意識で勤めている。また資格の取得や研修の受講に前向きに取り組めるように努力している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては、人種・性別・年齢などの制限をしていない。幅広い年齢層の職員が関わることによって利用者にとって有益な介護を提供できると考えている。人との関わりが大切な職業であることを常に意識し、社会参加や自己実現に向けてのモチベーションの向上を働きかけるなど、人権の尊重を考慮している	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われておらず、幅広い年齢層の男女職員が勤務されている。保有資格や特技等を活かし、季節感ある室内環境整備や体操指導等が実施されている。研修参加は出勤扱いとし、費用面でのサポートも行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスやミーティングで、利用者の尊厳を大切にすること、一人の人として敬う気持ちを大切にすることを常に伝えるように意識している。	高齢者虐待防止や権利擁護制度、理念について等、様々な視点から、人権教育、啓発に取り組んでいる。メンタルヘルスやストレスチェックに関する研修も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらも資格取得に向けてチャレンジすることや、法人内外の研修にも参加できるように調整している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス事業者協議会の研修への参加や、認知症SOS模擬訓練では同校区の他事業所と協力しながら地域の方への認知症の勉強会などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面での対応が、利用者・家族と事業所との関係に大きく影響することから、安心して利用してもらえるように配慮を忘れない。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	遠方の片は、メールでの情報交換に努めている。ご家族と一緒に考え、困っていることなどは出来るだけ、一緒に解決できるように工夫している。職員が介入しすぎて、ご家族と本人の関係が切れないようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや入居判定の時に、本人や家族の状況を聞き、入居の必要性や緊急性にも配慮している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、調理の手伝いなど、出来ることや利用者の知恵を借りることも多い。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所しても家族との一員としての実感を持てるように家族の写真を掲示することを依頼したりして工夫している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や商店などでの買い物など、個別活動の一環として取り組んでる。また自室には家族との思い出の写真を掲示して、家族との繋がりを感ぜられるように工夫している	入居時より馴染みの関係性の把握に努め、美容室や商店の利用、自宅周辺地域への訪問、地域行事への参加、お墓参りや趣味活動の継続等、馴染みの関係性の継続に向けた積極的な支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルメートの関係を大切に、職員がそのテーブルにはいることで良い関係づくりの支援を行っている。不穏状態の利用者には付き添い、他利用者への影響を最小限にとどめている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で一旦、契約が切れてしまう場合でも、同法人での受け入れなど再入居出来るように連携し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、買い物などの外出の希望があれば、出来る限りすぐに対応している。すぐに対応できないような内容は、受け持ちを中心計画をたてて実施している	入居時より、センター方式の一部活用も含めて情報を収集し、職員間で共有している。日常の中でも、何気ない一言や表情の変化、仕草等から気づきを得ながら、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方をご家族や前施設・病院から情報を得て支援している。ご本人の会話から、いままでの暮らし方や、現在の出来ること・支援すればできることを聞き出し、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態看護師を中心に状態観察を心がけている。一日の過ごし方は出来るだけ、本人のペースで過ごせるようにスタッフ全員で心がけている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画が職員主体や優先されないように心掛け、利用者のペースで毎日が流れるように工夫している。	モニタリングは、受け持ち担当職員も関わりながら定期的実施され、現状の実践状況の確認と見直しの必要性を検討されている。本人本位の視点や機能向上を念頭に置き、関係者の方向性の共有に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録にスタッフの気づきや工夫を記入することを心がけて普段のケアに役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の会話の中で、食べたいものや行きたい場所があるなどすれば、柔軟な支援を心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民が増えてきたことで、地域住民の面会や交流も増加してきたので、これからも地域との協働を心がける		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族から通院介助の希望もあれば支援している。また、訪問診療を希望される場合も対応して、看護師を中心に連携できるようにしている。	入居契約時に、かかりつけ医の希望について確認し、必要時には受診の支援も行われている。また、訪問診療体制も確保され、事業所としても看護師が配置されており、日々の健康管理や早期対応に結び付けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師と介護職員の連携はもちろんのこと、他の医療機関とも連携を心がけている。また、夜間でも利用者の対応で不安等があれば、看護師間でも連携している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他病院へ入院後は職員がお見舞いや面会に行っている。その際には家族の許可を得て、入院先の看護師から情報をもらい、退院後の入居時によりよい状態で生活できるよう連携している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の終末期の思いや考えを契約時や、入居後も定期的に意向を尋ねながら、方針を共有して支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に事業所としての方針と体制を説明し、意向を確認している。これまでに看取りの実績もあり、状況の変化に伴い、関係者での話し合いを重ねながら、その都度の意向確認と方針共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が行う院内研修や、福祉部内の研修で、AEDの使い方や発見時の初期対応などすべての職員が学ぶことができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内で緊急連絡網を作成している。地域との協力体制では、地域の高齢化もあるので、若い世代との関係作りを意識している途中である。	各種災害対応マニュアルを整備し、併設事業所と共に、消防署や地域消防団との連携を図りながら、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。AEDの使用方法も含め、研修や運営推進会議の議題としても取り上げ、地域拠点としての役割について模索している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉かけや、排泄、入浴介助時のプライバシーや羞恥心にも配慮して支援している。	接遇やプライバシー確保、認知症ケア、理念等の研修実施を通じて、誇りやプライバシーを損ねない対応について、意識を高めている。生活習慣の継続に向けた配慮や意思決定に向けた支援、個別の居場所の確保等に留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーション時や生活全般の中で意思の確認を行っている。特にケアを行う前には必ず「～していいですか？」と声かけと説明をし、意思決定が困難な方へは本人が選びやすいよう工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者一人一人のペースを大切にしているが、利用者同士の都合や、事業所の行事の都合がある場合には業務が優先される傾向があるのが課題である。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院や買い物等の外出時も大切な社会参加の機会として捉えて、本人なりのオシャレや身だしなみをして実施している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成や食器洗いなども利用者の役割と考え一緒に取り組んでいる。また、ミキサー食が必要な方にも手間にはなるが、他の利用者の方と同じ食事を提供できるように準備している。	事業所にて手作りの料理を提供している。買い物の際には食材の選択をサポートしたり、下ごしらえや食事の準備、後片付け等に個別の力を発揮してもらっている。時折、おやつ作りを行う機会もあり、食のプロセスを楽しむ場面は多い。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	パターンシートを使用しながら、食事量・水分量・タイミング・好み等、利用家族からのヤクルトからの持ち込みなどを行っていただくこともある。また、栄養委員会による情報交換		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの援助支援を行っている。またスタッフにも口腔ケアの大切さを周知して支援している。	/	
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを、スタッフ間で統一したパターンシートの用紙を活用して、観察している。また、排泄に関する変化や気づきがあった場合は、カンファレンスを行い、支援の方法を決めている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居様の体調に合わせて、乳製品、食物繊維など、他事業所の栄養委員会での情報交換や法人の管理栄養士などにも相談している。	/	
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の回数や入浴のタイミングも、その時の利用者の意向に沿っての支援を心がけている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを大切にしている。昼寝の時間を設けたり、夜間の状況に応じて柔軟に支援している。	/	
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬剤情報はカードックスにファイリングしているが、全スタッフが熟知しているとはいえない。処方変更などの情報は申し送りできており、状態変化の予測は共有している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活支援、洗濯干し、畑の収穫し、食卓に並ぶこと嗜好品など楽しみ、気分転換に努めている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者によっては、入居前の自分の自宅の荷物の整理に行きたい希望がある場合は、調整して時間を設けている。また、外出の希望がある場合も、支援している。	新型コロナ禍以前には、自宅や自宅周辺地域、お墓参り、公民館、スーパー、馴染みの美容室、親族宅、他事業所等、個別の目的に応じた積極的な外出支援が行われていた。開放的なウッドデッキが設置されており、気軽に外気浴を行うことが出来る環境にある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診の支払い、外出時などは、利用者様がお金の支払いを出来るように支援をしている。また、自己管理をしている方に関しても、支払いの仕方に変化がないかを確認しながら支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話連絡があれば、本人と変わり、本人の口からできるだけ話ができるように支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の整理整頓や清掃にもスタッフ全員が取り組み、気持ちよく過ごしてもらえるように心掛けている。	併設する小規模多機能型事業所まで続くウッドデッキ(ベランダ)の開放感が印象的であり、気軽な日光浴も可能となっている。木や和紙の質感が多用され、落ち着いた佇まいとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	夫婦や、関係が良好な利用者と一緒に過ごせる工夫などを大切にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使われていた家具や、家族との思い出の品など、本人や家族と相談しながら、空間作りをしているが、基本は本人や家族の意向通りにしている。	開口部が大きくとられた開放的な居室には、ソファや筆筒、応接セット、勳章や症状、アルバム、在宅時に使用していた掛け時計等が持ち込まれており、個性的な居室づくりを支援されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の目印や、出来るだけスタッフの声掛けや説明を必要とせず、目的の場所へ行けるように環境作りをしている。		